

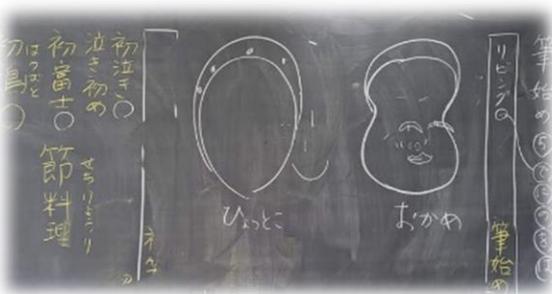
こどもたちに「お正月にした遊び」を尋ねました。「ゲーム!」と答えた子が、『兄ちゃんとゲーム三昧お正月』と俳句を作りました。他の子たちも「わかる、わかる」「うちも一緒」と反応し、多くの共感を得ていました。

そのような中、「百人一首やった」「双六やってみた」「歌留多でたくさん札を取れた」「羽根つきやった。前はミスすると顔に墨つけたらしいよ」などと話してくれた子もいました。祖父母の方々やいとこさんたちと、わいわい楽しく遊んだ話題で盛り上がりました。

「楽しい出来事がたくさんありましたね。冬休みにどんなことで笑っちゃったかな。教えてくださいか」と問いかけたら「赤ちゃんがおならしたのに、本人はすました顔していたから笑った。赤ちゃんでもおならするんだと思った。」という子がいました。それで、『初笑い』の季語で俳句を詠んでみることにしました。

『赤ちゃんのプープーおなら初笑い』
これを聞いた子が、
『赤ちゃんがぼくに似ていて初笑い』
と詠み、赤ちゃんシリーズになりました。

さらに、「ばらばらになっている顔のパーツを目隠しして並べるのをやった。へんな顔になって笑った」という子の発言から、「福笑い」の話になり、黒板を使って即席福笑いをすることになりました。



黒板に描かれた輪郭に、目をつぶって体を3回転させてから、チョークで目、眉、鼻、口などを描きました。マスクを目隠しにした子もいました。描いている子も見ている子も、その様子を俳句にしてみました。

- 『目隠しし顔がはずれる福笑い』
- 『友だちの顔が右寄り福笑い』
- 『福笑い顔が右寄り笑う君』
- 『福笑い場所が分からず一か所に』
- 『暗やみで笑い笑われ福笑い』

これからも楽しい学びができるようにしていきたいと思いました。

